令和7年度 グループホームおれんじハウス 事業計画

基本方針	<u>和7年及 フル</u>			営むことが出来るよう、入居者	
<u>本</u> 本/J业	様のニーズに合わ				
手上 陌口	・職員の資質向上を図り、質の高いサービス提供をします。				
重点項目	・定員満床(14名)を維持し、稼働率 93%(13人)を目指す。				
	・事業所運営に必要な事項について、法令順守に努める。				
	・職員の資質向上を図り、職場環境整備・職員支援体制(チームワーク形成)				
	自己啓発支援(資格取得・内部研修・外部研修)などの実施。				
	・新型コロナウィルス感染症対策に留意し、日々、ご入居様と職員の健康管理なび感染る時を行るととたに、発生時の対応を明確化する。				
	理及び感染予防を行うとともに、発生時の対応を明確化する。				
	年間利用延べ人数目標:				
	4,796 名 年間収入: 27,337,200円				
	(1日一人当たり金額:約 5700円。1日平均稼働率は93%に相当。)				
	年間平均稼働率目標(1日平均目標人数)				
	最低:93%(4,796名) 最高:100% (5,110名) 年間稼働目標 4,796名(93%)/ 名(目標 13/ 14名定員)				
		100%	10月	,	
		80%	11月	420/420 100%	
		100%	12月	348/434 80%	
	,	100%	1月	348/434 80%	
		80%	2月	392/392 100%	
7-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1		100%	3月	434/434 100%	
稼働目標	定員 14 名を維持することを前提に、稼働率 93%(13 名)以上を目指す。				
(利用見込) 	定期的な帰省、長期休みの帰省が見込まれる時期(5月、8月、12月、1月) の稼働率が落ち込むため、それ以外の帰省等が減るように支援を図る。				
7.77			の帰省寺	か減るように文援を凶る。	
予算	収入 国保連 24,000,000 円				
	利用料 14,0	,	*** ** ** ** ** ** ** ** **	√1.\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	
	経費 令和6年度	美領で基に物価局	(はこの)	状 流	
 事業内容	・障害者総合支援法が定める障害福祉サービスのひとつで、障がいがあって				
	・障害者総合文援法が定める障害価値サービスのひと うて、障がいかのうで も、その人の自己決定、必要性に応じた自立を目指した暮らしが出来るよ				
	うにサービスを提供する事業。				
	実施日:365日				
		がい者・精神障が	い者		
L	/3/2/ H : //HF3/+				

サービス内容	・共同生活における生活支援(食事提供・清掃、洗濯の手伝い・金銭管理)等			
 (支援内容)	・生活上での相談支援			
	・ひとり暮らしに向けた支援(ひとり暮らしをすると加算が付く)			
	*本人の意向に沿って、関係機関で連携し対応をする。			
	・利用者様の状況に応じて通院同行・外出支援(サービス費等の実費があり、			
	・利用自様の状況に応じて通院向1」・外山文援(リーこ人員等の美真があり、 移動支援に繋げられない利用者もいるため)を行う。			
	・関係機関との連絡調整(関係者会議の実施)			
 管理体制	・関係機関との連絡調整(関係有云識の美施) おれんじハウス			
(組織図) 	(管理者) 生活支援員 (生活支援員) (管理者) (生活支援員) (生活			
		管理責任者		
	, ,,,	世話人		
 年間行事	4月	食事レク(誕生日会含む)・ 避難訓練(地震)		
1013	5月	食事レク(誕生日会含む)・		
	6月	· ·		
		食事レク(誕生日会含む)・引地台公園まつり(外出レク)		
	7月	食事レク(誕生日会含む) ・ 七夕		
	8月	食事レク(誕生日会含む)・夏祭り(外出レク)		
	9月	食事レク(誕生日会含む) ・ 避難訓練(火災)		
	10月	食事レク(誕生日会含む)・		
	11月	食事レク(誕生日会含む)・		
	12月	食事レク(誕生日会含む) ・ クリスマス会		
	1月	食事レク(誕生日会含む)・ 初詣(外出レク)		
	2月	食事レク(誕生日会含む) ・ 節分		
	3月	食事レク(誕生日会含む) ・ ひなまつり		
その他	・定期的に職員会議を開催し職員間の連携を図る。			
	・職員の人数が少ないことで、夜勤者の負担が大きくなりやすい現状。			
	R7 年 1 月〜夜勤者ひとりでの勤務、大幅な勤務変更での負担は重なって			
	いるため、職員に対するケアが必要になってくることが予想される。			
	定期的に面談やメール等でのやりとりを行っていく。			